

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館年報

第 14 号（令和 5 年度）

Annual Report of the Tokushima Prefectural Torii Ryuzo Memorial Museum
No.14 (for the fiscal year of 2023)

目 次

I 展覧事業.....2	V 台湾との交流.....16
1. 常設展	1. 国立台湾史前文化博物館との連携協定附属書の締結
2. 企画展	2. 共同研究会・調査の実施
3. その他の展示	3. 台湾への訪問
4. 展示関係出版物	
II 調査研究事業.....6	VI 管理運営.....18
1. 令和5年度の調査概要	1. 組織・職員
2. 研究成果の公表	2. 防災及び危機管理
	3. 鳥居龍蔵記念博物館協議会
III 資料収集保存事業.....8	4. 改正博物館法に基づく登録
1. 館蔵資料数	5. 博物館ネットワーク
2. 写真・映像等の提供	6. 各種研修会への参加
3. 資料閲覧	7. 視察等来訪者
4. 資料整理ボランティア	
5. 資料の保存	VII 観覧者統計.....21
IV 普及教育事業.....10	VIII 施設の概要.....23
1. 普及行事	1. 沿革
2. 学校教育の支援	2. 施設の概要
3. 講師の派遣	
4. テレビへの出演	IX 例規.....24
5. 徳島新聞連載への協力	
6. インターネットによる情報発信	
7. 鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム	
8. 鳥居龍蔵記念 全国高校生歴史文化フォーラム	
9. 普及教育関係出版物	

I 展覧事業

鳥居龍蔵記念博物館の展示は、常設展と企画展、その他の展示からなる。

常設展は、鳥居龍蔵の生涯と研究業績を分かりやすく学ぶことができるよう3つの展示室で構成している。

東アジア各地における鳥居の調査ルートをLEDランプで示す床地図、遼王朝の陵墓の復元模型とともに、収集した資料や写真を通して龍蔵の足跡が学べる展示内容としている。土器パズルや民族衣装などの体験学習キット、映像資料が検索・閲覧できるパソコンや、随時展示替える「トピックコーナー」も設置している。5年度は、新型コロナウイルス流行以来取りやめていた土器パズルや民族衣装（帽子のみ）等の使用を再開した。

また、常設展以外に、期間を限定して、特定のテーマに即して開催する企画展等がある。5年度は、企画展を1回、その他の展示を2回開催した。

1. 常設展

(1) 展示構成

■第1展示室 鳥居龍蔵の見たアジア

鳥居龍蔵のアジア調査の成果について、地域別に概観できるよう構成している。写真や民族・考古資料を幅広く紹介している。

1. 台湾・中国西南部
2. 中国東北部・内モンゴル
3. 遼
4. 朝鮮半島
5. 千島列島・サハリン・シベリア
6. 日本列島

■第2展示室 鳥居龍蔵の生涯

人類学を志した徳島での少年時代から、やがて東京に移ってからの研究、家族とともに携わった調査など、生涯にわたる足跡や多彩な交流の様子を紹介している。

1. 人類学への志
2. 家族とともに
3. 南アメリカ

■第3展示室 鳥居龍蔵から学ぶもの

検索機能を備えたパソコンを設置したり書籍を配架

したりして、鳥居の学問的な成果が学べるとともに、子どもも楽しめる体験学習キットを用意している。

1. 情報コーナー（パソコンを使った鳥居龍蔵撮影の写真の検索・閲覧や番組型コンテンツの提供）
2. 体験展示（土器パズル、カメラ体験、民族衣装の試着（帽子のみ）、ジグソーパズル）
3. 図書コーナー（鳥居龍蔵の著作などの閲覧用提供）

(2) トピックコーナーの展示替え

平成24年度から、第2展示室内の一部をトピックコーナーとし、整理の進んだ資料を中心に、随時展示替えを行っている。5年度の実績は次のとおりである。

●鳥居龍蔵が見た120年前の沖縄

令和4年度〔11月15日（火）〕～4月16日（日）

展示資料4点（館蔵資料4点）

鳥居が1904年6月から8月にかけて沖縄島や八重山諸島で行った調査のうち、詳細があまり知られていない民俗調査について、彼が遺した写真やスケッチをもとに紹介した。

●鳥居龍蔵の台湾調査と現代

4月18日（火）～7月23日（日）

展示資料1点（館蔵資料1点）

鳥居龍蔵が4度目の台湾調査を行った際に記録した、パイワン族の村の様子を紹介した。また、現在のパイワン族社会における取組みにも焦点を当て、鳥居が残した資料の現代的意義について考察した。

●スクラップブックがつたえるアイヌへのまなざし

7月25日（火）～11月19日（日）

展示資料4点（館蔵資料4点）

明治期の新聞からアイヌ関係記事を切り抜いて作られたノートや、それらの記事のもとになった鳥居の関連調査資料を紹介した。

●鳥居家ゆかりの中国関係資料

11月21日（火）～3月31日（日）

展示資料2点（館蔵資料2点）

鳥居龍蔵は1939年にハーバード・燕京研究所に招聘された後、1951年に帰国するまで北京で暮らした。本展示では、近年当館に寄贈された、当時の鳥居家ゆかりの資料を紹介した。

2. 企画展

(1) 企画展「台湾世界を行く―鳥居龍蔵の見た海・山・ひと・ムラ―」

- 主 催
 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
 徳島県立博物館
- 会 場
 徳島県立博物館企画展示室
- 会 期
 1月27日（土）～3月3日（日）
 （開館日数32日）
- 展示構成
 プロローグ 南方の多民族社会・台湾
 I 学知のユリカゴ 調査手法を編みだす
 II 台湾世界を行く 鳥居龍蔵がたどった道
 III 再会する資料群
 IV 甦る足跡 資料を重ねる
 V 同志よ！
 VI 交流、そして未来へ
 エピローグ 時空を超えて
- 展示資料総点数
 411点（館蔵資料33点）
- 観覧料
 一般200円（65歳以上100円）
 高校・大学生100円、小・中学生50円
- 観覧者数
 1,497人

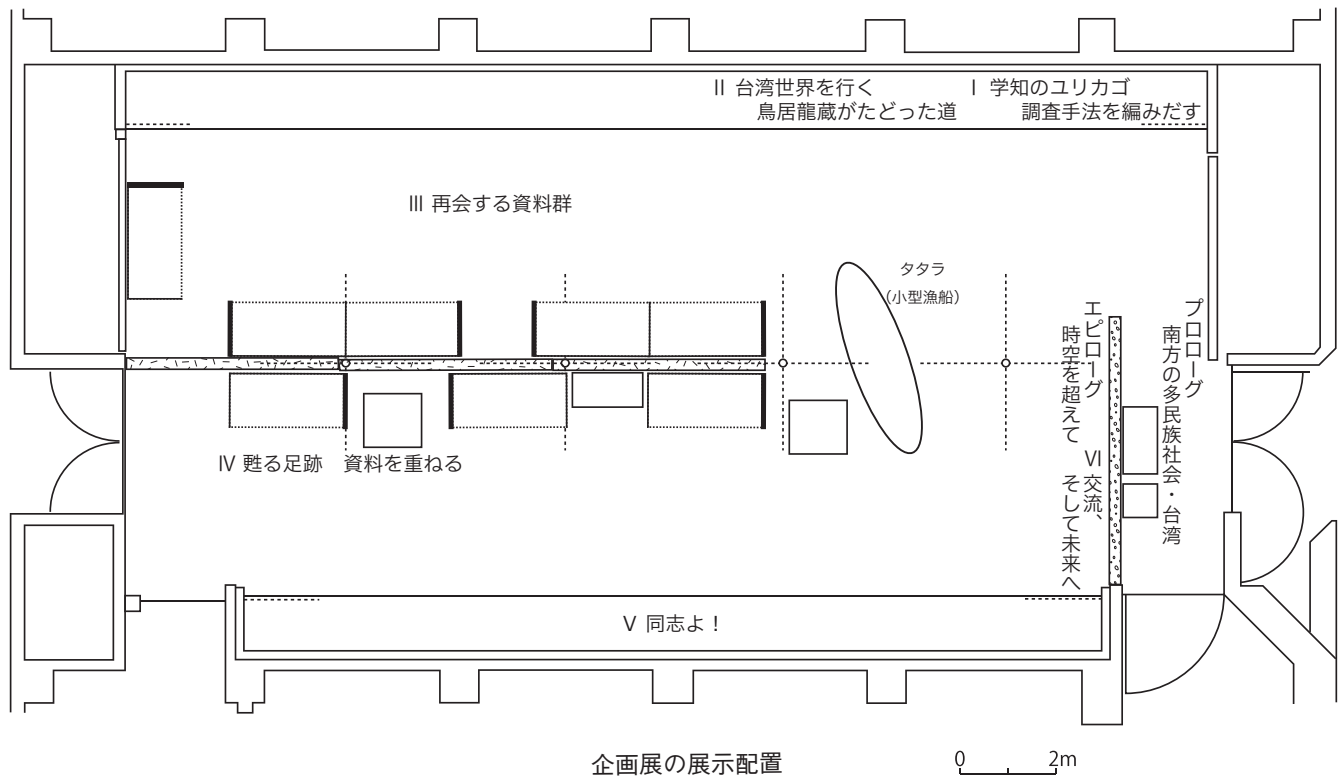
●関連行事

- ①記念講演会「鳥居龍蔵調査資料と台湾世界」
 日 時 2月25日（日）13：30～15：30
 会 場 文化の森イベントホール
 講師・演題
 (1)野林厚志氏（国立民族学博物館）
 「鳥居フィールドノートと台湾世界」
 (2)海部陽介氏（東京大学総合研究博物館）
 「台湾から日本へ 南方海上の道と人類学」
 (3)トークセッション
 【参加者】野林厚志氏、海部陽介氏
 【コーディネーター】石井伸夫
 参加者 140人
- ②展示解説
 第1回 1月28日（日）
 13：30～14：30 参加者 12人
 第2回 2月4日（日）
 13：30～14：30 参加者 16人
 第3回 3月3日（日）
 13：30～14：30 参加者 28人

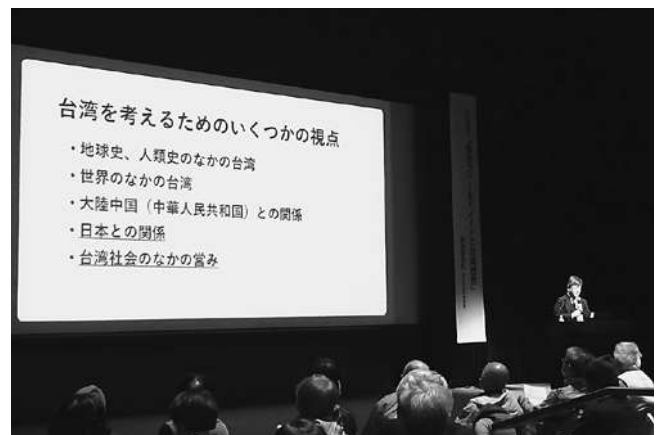


企画展のチラシ（左：表面 / 右：裏面）

4 展覧事業



展示の様子



記念講演会の様子（野林厚志氏の講演）



展示解説の様子



記念講演会の様子（海部陽介氏の講演）

3. その他の展示

(1) 2階中央ロビーでの展示

常設展示室前の2階中央ロビーで、小規模な展示を行った。

●鳥居龍蔵記念博物館 台湾訪問記

期 間 8月2日（水）～11月19日（日）

展示資料 2点（館蔵資料1点、個人蔵1点）

令和5年2月、当館の職員4名が台湾を訪問し、国立台湾史前文化博物館と共同で調査を行った。その際の様子を写真等で紹介した。

(2) 2023年度文化の森人権啓発展

文化の森6館と徳島県教育委員会人権教育課の共催で、人権問題啓発展（識字学級生の作品を中心とする展示）を行った。

●主催 文化の森6館、徳島県教育委員会人権教育課

●期間 12月6日（水）～12月12日（火）

●会場 近代美術館ギャラリー（展示）

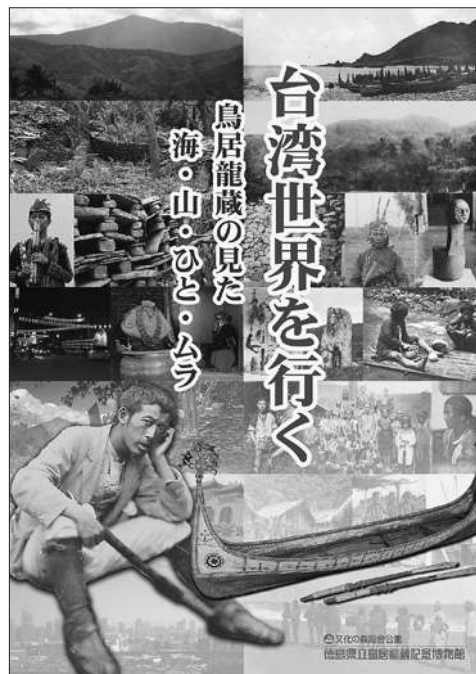
21世紀館ミニシアター（ビデオ上映）

●入場者数 348人

4. 展示関係出版物

●企画展図録「台湾世界を行く―鳥居龍蔵の見た海・山・ひと・ムラ」

2024年1月27日発行、A4判64ページ、500部



企画展図録「台湾世界を行く」の表紙

Ⅱ 調査研究事業

鳥居龍蔵記念博物館では、設置の趣旨にもとづき、鳥居龍蔵とその周辺に関する調査研究を進めることで、最新の情報を盛り込んだ展示や内容豊かな普及活動による鳥居龍蔵の顕彰を図るための基盤整備を進めている。とくに、館蔵資料に即した調査研究に重点を置いて取り組んでいる。

令和5年度は、専任の学芸スタッフ4名を中心に、兼務職員とともにこの業務に携わった。

1. 令和5年度の調査概要

(1) 台湾との共同研究

p. 16 を参照。

(2) フィールドノート講読会

当館は、鳥居龍蔵が台湾調査の際に作成したフィールドノート群を所蔵している。それらを精査することは、鳥居が行った台湾調査の具体相を解明する上で、不可欠な作業である。4年度から開始したフィールドノート講読会を、5年度も引き続き実施し、2冊の翻刻を行った。講読会の開催日程と、各回における担当者は、以下のとおりである。

4月7日（金） 小林篤正
5月9日（火） 松永友和
6月16日（金） 野林厚志氏（国立民族学博物館）
7月13日（木） 長谷川賢二
8月25日（金） 坂東 泰、小林篤正
9月28日（木） 小林篤正、野林厚志氏
10月27日（金） 石井伸夫



フィールドノート講読会の様子

12月15日（金） 松永友和
1月31日（水） 小林篤正
2月27日（火） 長谷川賢二
3月29日（金） 野林厚志氏

2. 研究成果の公表

(1) 公表論文・報告・記事等一覧

〈学術的著述〉

坂東 泰（2023.4）清末の禁煙運動に於ける中央・省関係—土薬統税との連関を中心に．中国研究月報，77（4）：22-45.

坂東 泰（2023.6）清末土薬統税考．東洋学報，105（1）：29-59.

〈一般著述〉

大橋俊雄（2023.4）（日本人の起源を探る 鳥居龍蔵知の旅²²）絵師に影響を与えた講演．徳島新聞 2023.4.22.

石井伸夫（2023.5）（日本人の起源を探る 鳥居龍蔵知の旅²³）金比羅神社の大灯籠．徳島新聞 2023.5.20.

石井伸夫（2023.8）（日本人の起源を探る 鳥居龍蔵知の旅²⁶）木頭調査．徳島新聞 2023.8.4.

長谷川賢二（2023.9）（日本人の起源を探る 鳥居龍蔵知の旅²⁷）非漢族．徳島新聞 2023.9.5.

石井伸夫（2023.10）（日本人の起源を探る 鳥居龍蔵知の旅²⁸）「固有日本人」の発見．徳島新聞 2023.10.24.

下田順一（2023.10）（今季の逸品）鳥居龍蔵あて 佐藤醇吉の絵葉書．鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER,（4）：1.

石井伸夫（2023.10）（資料でたどる、鳥居龍蔵の学問と生涯）第4章「たかさごのたび」から「那賀のあら妙」、そして「西清のたび」へ．鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER,（4）：2-3.

坂東 泰（2023.10）（ゆかりの地今昔）鳥居龍蔵の見た野村八幡古墳．鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER,（4）：4.

大橋俊雄（2023.10）（資料整理の最前線）国宝「鋳銅刻画蔵王権現像」と鳥居親子．鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER,（4）：5.

- 松永友和（2023.10）鳥居龍蔵が訪れた台湾・力里旧社．鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER, (4) : 6.
- 小林篤正（2023.10）台湾との学術交流について．鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER, (4) : 7.
- 小林篤正（2024.3）（今季の逸品）鳥居龍蔵ときみ子の写真．鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER, (5) : 1.
- 石井伸夫（2024.3）（資料でたどる、鳥居龍蔵の学問と生涯）第5章 北東アジアでの調査と「固有日本人」の発見．鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER, (5) : 2-3.
- 下田順一（2024.3）（資料整理の最前線）遼代の白磁資料．鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER, (5) : 4.
- 長谷川賢二（2024.3）（龍蔵を巡る人々―碩学と社会のインターフェイス―）笠井新也．鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER, (5) : 5.
- 植地岳彦（2024.3）東京大学総合研究博物館が所蔵する台湾考古資料の調査．鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER, (5) : 6.
- 坂東 泰（2024.3）台湾・内文旧社見聞記．鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER, (5) : 7.

(2) 学会・研究会等での発表

- 坂東 泰（2023.12）20世紀初頭の中国における財政集権化政策とアヘン禁圧運動．徳島地方史研究会 12月例会（徳島）．

Ⅲ 資料収集保存事業

鳥居龍藏記念博物館では、鳴門市にあった旧館（鳥居記念博物館）から引き継いだ資料の詳細な調査・整理やデータ登録、保存を資料収集保存事業の中心としている。令和5年度は、会計年度任用職員2名の援助を得て作業を進めた。

また、鳥居龍藏に関連する資料の新規購入にも努めた。5年度以降も引き続き、新規収集を心がけていきたい。

1. 館蔵資料数

当館には鳥居龍藏の収集資料や遺品等を所蔵しており、内容は考古資料・民族資料・書籍類・写真・拓本・自筆原稿・書簡等、多岐にわたる。その総数は約70,000点である。調査・整理を継続しており、実数は未だつかめていないが、未開封だった資料の精査が進んでいる。

また、5年度は、今後の企画展等の開催計画や情報収集、展示資料の充実を考慮して、資料を計167点購入した。

2. 写真・映像等の提供

- | | |
|------------------------|-----|
| ①鳥居龍藏の肖像写真ほか | 27点 |
| 株式会社くもん出版社(出版物掲載) | |
| ②鳥居龍藏の肖像写真 | 1点 |
| 株式会社中海テレビ放送(放映) | |
| ③第18号西都原1号塚発掘図ほか | 8点 |
| 宮崎県立西都原考古博物館(出版物掲載) | |
| ④集古会集合写真 | 1点 |
| 木村悠之介氏(出版物掲載) | |
| ⑤西都原1号発掘図ほか | 2点 |
| 東京大学大学院 藏田愛子氏(出版物掲載) | |
| ⑥恩智茶ノ木遺跡発掘調査風景の写真ほか | 2点 |
| 八尾市立歴史民俗資料館(出版物掲載) | |
| ⑦資料調査中の鳥居龍藏の写真 | 1点 |
| 阿南市市民部文化振興課(出版物掲載) | |
| ⑧鳥居龍藏の肖像写真ほか | 2点 |
| 徳島市立考古資料館(出版物掲載) | |
| ⑨フィールドノート「たかさごのたび 四」ほか | 6点 |
| 福岡大学 宮岡真央子氏(出版物掲載) | |

- | | |
|------------------------------|----|
| ⑩鳥居龍藏記念 徳島歴史文化フォーラム チラシほか | 2点 |
| 生駒佳也氏(出版物掲載) | |
| ⑪鳥居きみ子の肖像写真 | 1点 |
| 読売新聞徳島支局(出版物掲載) | |
| ⑫「カトリック美術展」関係者集合写真 | 1点 |
| 鳴門市ドイツ館(パネル展示) | |
| ⑬フィールドノート「たかさごのたび 一」ほか | 5点 |
| 国立台湾史前文化博物館 林 慧仙氏(出版物掲載) | |
| ⑭フィールドノート「福岡・大分 鳥取・島根1926」ほか | 5点 |
| 石尾和仁氏(出版物掲載) | |

3. 資料閲覧

- | | |
|---------------------|-----|
| ①山陰史蹟 | 1点 |
| 石尾和仁氏 | |
| ②原稿「阿波の有史以前」 | 1点 |
| 湯浅利彦氏 | |
| ③佐藤醇吉から鳥居龍藏宛の葉書ほか | 21点 |
| 東京大学大学院 藏田愛子氏 | |
| ④慶陵の東陵前古址採集の瓦ほか | 16点 |
| 早稲田大学文学学術院 呉 心怡氏 | |
| ⑤遼代の陶磁器ほか | 31点 |
| 筑波大学人間総合科学学術院 井上桂子氏 | |
| ⑥遼代の瓦ほか | 32点 |
| 中国科学院大学 黄 荣光氏 | |

4. 資料整理ボランティア

平成25年度から、歴史文化倶楽部（シルバー大学校及び同大学院の歴史文化講座修了者の会）の会員等からなるボランティアの協力を得て、館蔵資料の整理作業を進めている。

5年度も月1～2回のペースで活動を行い、必要に応じて有識者の助言を得ながらデータの蓄積を図った。活動実施日は次のとおりである。

- | | |
|-----|----------|
| 第1回 | 4月26日（水） |
| 第2回 | 5月19日（金） |
| 第3回 | 6月2日（金） |
| 第4回 | 6月14日（水） |

第5回	7月5日(水)
第6回	7月19日(水)
第7回	9月6日(水)
第8回	9月26日(火)
第9回	10月11日(水)
第10回	10月25日(水)
第11回	11月8日(水)
第12回	11月17日(金)
第13回	12月15日(金)
第14回	2月7日(水)
第15回	2月21日(水)



ボランティア活動の様子

5. 資料の保存

(1) 資料の燻蒸

害虫やカビは、資料を劣化させる原因となる。そこで、企画展で展示した資料や資料整理を終えた資料などは、収蔵庫への搬入に先だって、原則としてすべて燻蒸を行う必要がある。なお、当該資料の燻蒸作業は、文化財専門の燻蒸業者に依託している。

(2) 収蔵庫における環境管理

収蔵庫への出入りなどにもなつて、害虫やカビなどが侵入する恐れがあることから、定期的に清掃を実施し、虫菌害の防除に努めている。

(3) 常設展示室における環境管理

常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間ではないため、害虫の侵入を防ぐことができず、また、展示室全体の燻蒸が不可能である。そこで、害虫への対策として、防虫剤の設置と粘着トラップを用いて文化財害虫の発生状況のモニタリングを実施している。5年度も実施した。

IV 普及教育事業

鳥居龍蔵記念博物館における普及教育事業は、鳥居龍蔵の顕彰を推進するための県民に対する情報発信の意味をもち、重要である。また、調査研究や資料収集保存の成果を示すという意味でも、展示とともに意義深い事業といえる。

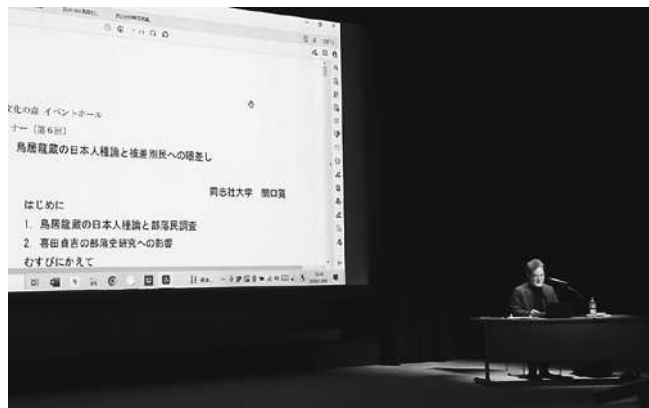
1. 普及行事

令和5年度は、鳥居龍蔵セミナーや企画展関連行事などを行い、普及啓発に努めた。

■鳥居龍蔵セミナー

この事業は、鳥居龍蔵の学説や調査活動などをそれぞれのテーマに沿って、専門講座を実施することにより、鳥居の生涯や業績を多くの方々に理解してもらい、その顕彰に寄与するものである。

- ・ 5月28日（日）
第1回「鳥居龍蔵の調査・研究を支えた人々」
下田順一 33人
- ・ 6月11日（日）
第2回「鳥居龍蔵、青年期の挑戦—台湾学術探検を検証する—」
石井伸夫 20人
- ・ 7月30日（日）
第3回「鳥居龍蔵の妻・きみ子について」
小林篤正 33人
- ・ 9月3日（日）
第4回「台湾人類学の先駆者・伊能嘉矩と鳥居龍蔵」
松永友和 40人
- ・ 10月29日（日）
第5回「鳥居龍蔵の著述が持つ史料としての可能性—中国西南部の調査を事例として—」
坂東 泰 33人
- ・ 12月3日（日）
第6回「鳥居龍蔵の日本人種論と被差別民への眼差し」
関口 寛氏（同志社大学人文科学研究所）
46人



鳥居龍蔵セミナー（第6回）の様子

■夏休み自由研究スペシャル

- 8月6日（日）
みんなで発見!! 鳥居龍蔵を知ろう!! 13人

■企画展関連行事

- ・ 企画展「台湾世界を行く—鳥居龍蔵の見た海・山・ひと・ムラ—」展示解説
 - 第1回 1月28日（日） 12人
 - 第2回 2月4日（日） 16人
 - 第3回 3月3日（日） 28人
- ・ 記念講演会「鳥居龍蔵調査資料と台湾世界」
 - (1)野林厚志氏（国立民族学博物館）
「鳥居フィールドノートと台湾世界」
 - (2)海部陽介氏（東京大学総合研究博物館）
「台湾から日本へ 南方海上の道と人類学」
 - (3)トークセッション
2月25日（日） 140人

■文化の森共同イベント

- ・ 5月5日（金・祝）
「文化の森 こどもの日フェスティバル」（世界の帽子ってどんなだろう・文化の森ウォークラリー）
775人
- ・ 8月11日（金・祝）
「文化の森 サマーフェスティバル」（総合合わせパズルにチャレンジ・文化の森ウォークラリー） 617人
- ・ 11月3日（金・祝）
「文化の森 秋祭り」（民族衣装を着てみよう・文化の森ウォークラリー） 677人

- ・ 2月11日（日・祝）
「文化の森 ウィンターフェスティバル」（ぬり絵を
楽しもう・文化の森ウォークラリー） 965人

2. 学校教育の支援

徳島県立博物館が主催して開催した、「教員のための博物館の日 in 徳島」（7月28日（金））に、協力館として参画した。

3. 講師の派遣

- ・ 8月18日（金） 小林篤正
「鳥居龍蔵とその時代」（徳島県シルバー大学校徳島校、徳島県青少年センター）
- ・ 9月3日（日） 長谷川賢二
「研究者が残した写真・記録の活用～徳島県立鳥居龍蔵記念博物館と国立台湾史前文化博物館との協働を中心に～」（公開フォーラム「先住民の環境知識～未来に向けた再構築・活性化の多様な試み～」、北海道平取町・沙流川歴史館）
- ・ 9月20日（水） 坂東 泰
「鳥居龍蔵とその時代」（徳島県シルバー大学校阿南校、阿南ひまわり会館）
- ・ 9月20日（水） 下田順一
「人類学者 鳥居龍蔵」（徳島県シルバー大学校大学院、徳島県総合福祉センター）
- ・ 10月24日（火） 小林篤正
「鳥居龍蔵とその時代」（徳島県シルバー大学校小松島校、小松島総合福祉センター）
- ・ 11月20日（月） 長谷川賢二
「フロンティアとしての鳥居龍蔵—アジアに見た夢—」（徳島県製薬協会・11月定例研究会、ザ・グラントパレス徳島）
- ・ 12月4日（月） 長谷川賢二
「フロンティアの学問史—鳥居龍蔵をめぐる—」（歴史文化倶楽部・令和5年12月月例講座、徳島県郷土文化会館）
- ・ 12月9日（土） 長谷川賢二
「明治から昭和を駆け抜けた学者「鳥居龍蔵」の徳島県南調査」（講演会「徳島県南地域の遺跡調査の黎明期と現在」、阿南市文化会館）

4. テレビへの出演

事業のPRのためのテレビへの出演等を、月日・出演者・内容の順に記す。

- ・ 1月27日（土） 石井伸夫 NHK徳島放送局（企画展「台湾世界を行く—鳥居龍蔵の見た海・山・ひと・ムラ—」について）

5. 徳島新聞連載への協力

徳島新聞社では令和3年4月から5年12月まで、文化面において「日本人の起源を探る 鳥居龍蔵知の旅」の連載を行った（下記の丸番号は連載番号）。当館では、このコーナーの編集協力（テーマ及び執筆者の選定、校正）を行った。5年度の執筆者、テーマ、掲載日は次のとおりである。なお、当館職員以外の執筆者には所属を付した。

- ②大橋俊雄
「絵師に影響を与えた講演」 4月22日
- ③石井伸夫
「金比羅神社の大灯籠」 5月20日
- ④石尾和仁氏（佐那河内村役場）
「山陰調査」 6月13日
- ⑤野林厚志氏（国立民族学博物館）
「ホモ・サピエンスと技術」 7月18日
- ⑥石井伸夫
「木頭調査」 8月4日
- ⑦長谷川賢二
「非漢族」 9月5日
- ⑧石井伸夫
「「固有日本人」の発見」 10月24日
- ⑨ラファエル・アバ氏（スペイン国立セビリア大学）
「西洋社会での名声」 12月26日

6. インターネットによる情報発信

(1) ホームページの公開

鳥居龍蔵記念博物館のホームページを開設し、事業の紹介や学習教材の提供などを行っている。主な内容は次のとおりである。

- ・ 利用案内（開館日、観覧料、交通アクセス等）
- ・ 学校教育での利用（観覧料の免除と手続き、出前授業）の案内
- ・ 常設展・企画展や各種展示の紹介
- ・ 「鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム」及び「鳥居龍蔵記念 全国高校生歴史文化フォーラム」の紹介
- ・ 台湾との交流についての紹介
- ・ 学芸員の自己紹介
- ・ 鳥居龍蔵についての紹介
- ・ 研究報告や一部の図録類のダウンロードコーナー
- ・ ご意見コーナー

(2) デジタルアーカイブ

当館を含む文化の森総合公園文化施設では、元年度から、「徳島県文化の森デジタルアーカイブ構築事業」を実施している。5年度、当館では7点の資料を撮影した。これらのデジタルデータは、6年度に「徳島県立鳥居龍蔵記念博物館デジタルアーカイブ」において追加公開の予定である。

(3) 館蔵資料データベースの公開

2年度から開始した、館蔵資料データベースの公開を継続するとともに、データ整備作業を推進した。

7. 鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム

鳥居龍蔵は、徳島が生んだ世界的な学者である。彼は、人類学、民族学、考古学など多様な手法を駆使し、当時世界最先端の業績をあげたが、その礎は、地元の歴史や文化についてフィールドワークをもとに研究し、その成果を世に問いかけた少年時代の活動にあったといっても過言ではない。このような鳥居龍蔵の取り組みを記念し、徳島の中学生・高校生による歴史文化に関する自主的な研究活動を後押しすることにより、人材の育成を図ることを目的に、平成28年度から実施しており、令和5年度で8回目となった。

なお、この事業は26・27年度に行った博学連携推進モデル事業（年報5・6号参照）の成果を踏まえて行うこととしたものである。

●主催

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
徳島県立博物館

●後援

徳島県博物館協議会

●募集内容及び条件

地域の歴史・文化について自主研究活動を行ってもらい、研究成果をまとめたレポートを募集した。テーマは、①特定の地域の歴史・文化に関すること（必ずしも徳島県内に限定しない）、②鳥居龍蔵に関連することのいずれかとした。

また、研究及びレポート作成の条件として、①フィールドワーク（現地での見学や聞き取り、写真撮影等の調査）を行い、その結果をもとに考察すること、②テーマに関連する博物館や資料館を利用することとした。

●募集期間

7月19日（水）～11月17日（金）

●対象（応募資格）

県内在住の中学校・高等学校及び特別支援学校（中学部、高等部）の生徒（中等教育学校の生徒及び高等専門学校3年生までの学生を含む）

※個人・グループなど、どのような形態でも参加可能

●募集結果

特定の地域の歴史・文化に関するテーマで、中学生の部3件、高校生の部3件の応募があり、それら全てを口頭発表の対象とした。

●研究発表

①日 程 2月17日（土）10：00～15：30

中学生の部 10：00～12：00

高校生の部 13：30～15：30

②会 場 文化の森イベントホール

③参加者 66人

●審査・表彰

①審査委員

桑原 恵氏（徳島大学名誉教授）

佐藤正志氏（摂南大学名誉教授）

藤川智之氏（公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター次長）

②審査結果

審査の結果は次の通りであった。

〈中学生の部〉

優秀賞「地名から読み解くマイルーツ探訪—牛島八幡神社とわたし—」

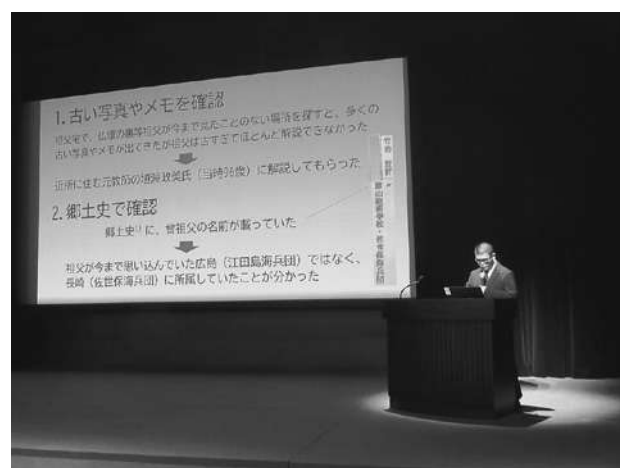
鳴門教育大学附属中学校 川原もも香

同 上「洪水から命を守れ！！これぞ究極の洪水対策 国指定重要文化財・日本遺産—田中家住宅—」

鳴門教育大学附属中学校 新田翔平

奨励賞「ラジオ塔を知る」

鳴門教育大学附属中学校 木下倫歌



徳島歴史文化フォーラム（高校生の部）の様子

〈高校生の部〉

優秀賞「有事の日本で活躍した曾祖父の生涯をたどる」

未来高等学校 松本雄介

奨励賞「八万の今昔 洪水と人々の暮らしーフィールドワークで得たものー」

徳島県立城南高等学校

後藤田琴音、池淵万悠希、山橋あゆみ、岩佐千保

同上「牛岐城と城主新開氏・その周辺の歴史について」

徳島県立富岡東高等学校 露口智理

●関連行事

①ガイダンス講座 7月16日（日）

「フィールドワークに挑戦！」

ガイダンス講座受講希望者を対象とし、現地を巡って基礎的な調査を体験してもらい、自主研究のスキル向上を目指した。

行 先 乗合馬車発着所跡、オッパショ石、城南高校水路跡、妙見庵跡、円福寺、夷山城跡、若宮神社（夷山）、若宮神社（橋本）、鳥居龍蔵記念博物館（以上、徳島市）

講 師 西本沙織氏（徳島市教育委員会）

参加者 7人



ガイダンス講座の様子



現地研修会の様子

②現地研修会

11月19日（日）

「文化遺産を巡る旅 in 和歌山」

レポート提出予定者を対象として、地域の文化遺産を見学した。

行 先 根来寺（岩出市）、わかやま歴史館、和歌山城（以上、和歌山市）

講 師 北野隆亮氏（わかやま歴史館）
新谷和之氏（近畿大学）

参加者 8名

8. 鳥居龍蔵記念 全国高校生歴史文化フォーラム

令和2年度、鳥居龍蔵生誕150周年を記念して、全国高校生歴史文化フォーラムを創設した。この事業の目的は、全国の高校生から歴史や文化に関する自主的な研究を募集し、優れた応募作品を表彰することで、その研究を行った者の活動を後押しし、未来を切り開く人材の育成を図ることである。5年度で4度目の開催であり、初めて完全対面形式での開催となった。

●主催

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館

●募集内容及び条件

地域の歴史・文化について自主研究活動を行ってもらい、研究成果をまとめたレポートを募集した。テーマは、①特定の地域の歴史・文化に関すること、②鳥居龍蔵に関することのいずれかとした。

また、研究及びレポート作成の条件として、①フィールドワーク（現地での見学や聞き取り、写真撮影等の調査）を行い、その結果をもとに考察すること、②テーマに関する博物館や資料館を利用すること、③調査内容や結果からの考察を、文章、図表、地図、写真等を用いて表現することとした。

●募集期間

7月19日（水）～11月17日（金）

●対象（応募資格）

高等学校及び特別支援学校（高等部）の生徒（中等教育学校の後期課程在籍の生徒及び高等専門学校3年生までの学生を含む）

●審査委員

桑原 恵氏（徳島大学名誉教授）

佐藤正志氏（摂南大学名誉教授）

藤川智之氏（公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター次長）

●審査

①1次審査（書類選考）を行い、優秀な研究を表彰した。

14 普及教育事業

- ② 1次審査の結果、上位の4組（1組辞退）については、フォーラム（研究発表会）に参加し、徳島歴史文化フォーラムの上位者とともに口頭報告を行ってもらい、最優秀者を選考し、表彰した。

● 1次審査（書類審査）の結果

【優秀賞】

- ・「伊予の国小野谷に残る小野小町伝承の謎を解く3」
愛媛県立松山北高等学校 郷土研究部
(森川晴仁、岸本美花、岡部美紀)
- ・「地下軍需工場建設と本土決戦準備—東海軍管区の本土決戦構想を探る—」
岐阜県立関高等学校 地域研究部
(杉浦良太郎、鈴木遙斗、梅村颯太郎、酒向達也)
- ・「矢板宿の今昔—現代に残る屋号—」
栃木県立矢板東高等学校 リベラルアーツ同好会
(河野邊晶)
- ・「壱岐勝本城跡の本丸虎口に関する研究」
長崎県立壱岐高等学校 東アジア歴史・中国語コース 歴史学専攻 (武井慎之介)

【入賞】

- ・「西条の名物『蚊』の謎—大正期の記述から—」
愛媛県立西条高等学校 地域・歴史研究部
(栗田晴一郎、請川あかね、鶴川快斗)
- ・「長良川水系におけるマガモの無双網猟に関する調査—猟師足立公成さんに学ぶ—」
岐阜県立関高等学校 鳥類研究班
(大野孝斗、山内健心、津田涼榎、濱口天弥、船戸ひなた、櫻井蒼矢、大橋立季、古田侑暉)
- ・「『東美濃三カ所城』をめぐる—山城と古文書から考える中濃の戦国史—」
岐阜県立関高等学校 地域研究部
(森 翔吾、神山諒成、佐藤孝亮、渡辺俊太、岩原知哉、土本徳哉)
- ・「児山城の謎を追う—堀と土塁の形と広がり—」
栃木県立石橋高等学校 歴史研究部 児山城研究班
(岡本悠聖、野村 仁、櫻井恵太、瀬尾拓蒔)
- ・「戦時中の矢板市の様相—御前原秘匿飛行場と女性の勤労働員—」
栃木県立矢板東高等学校 リベラルアーツ同好会 歴史研究班 (森花菜子、葛西夢彩)

【佳作】

- ・「坂上田村麻呂による蝦夷政策」
秋田県立秋田北高等学校 歴史研究部
(菅原埜瑚、阿部絢菜)
- ・「開かれる越美国境」
鶯谷高等学校 社会研究サークル (横井裕多)

- ・「日本を愛したドイツ人—シーボルトは何故その半生を『日本』に捧げたのか—」
長崎県立長崎東高等学校 郷土研究部
(庄司澄音、林田明莉、松永百叶、濱洲和佳)

● フォーラム（発表会）

- ①日 程 2月18日（日）13：30～15：30
- ②会 場 文化の森イベントホール
- ③参加者 15人
- ④題目・発表者（発表順）及び審査結果
 - ・「伊予の国小野谷に残る小野小町伝承の謎を解く3」
愛媛県立松山北高等学校 郷土研究部
(森川晴仁、岸本美花、岡部美紀)
 - ・「矢板宿の今昔—現代に残る屋号—」
栃木県立矢板東高等学校 リベラルアーツ同好会
(河野邊晶)
 - ・「壱岐勝本城跡の本丸虎口に関する研究」
長崎県立壱岐高等学校 東アジア歴史・中国語コース 歴史学専攻 (武井慎之介)
 - ・「有事の日本で活躍した曾祖父の生涯をたどる」
未来高等学校 松本雄介

【最優秀賞】

- ・「矢板宿の今昔—現代に残る屋号—」
栃木県立矢板東高等学校 リベラルアーツ同好会
(河野邊晶)



「鳥居龍蔵記念 全国高校生歴史文化フォーラム」の様子

9. 普及教育関係出版物

●令和4年度 鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム報告書

2023年6月1日発行、A4判16ページ、1,000部



「鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム報告書」表紙

●鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER No. 4

2023年10月30日発行、A4判8ページ、3,000部

下田順一「鳥居龍蔵あて佐藤醇吉の絵葉書」(今季の逸品)、p. 1.

石井伸夫「第4章 「たかさごのたび」から「那賀のあら妙」、そして「西清のたび」へ」(資料でたどる、鳥居龍蔵の学問と生涯)、p. 2-3.

坂東 泰「鳥居龍蔵の見た野村八幡古墳」(ゆかりの地今昔)、p. 4.

大橋俊雄「国宝「銅刻面蔵王権現像」と鳥居親子」(資料整理の最前線)、p. 5.

松永友和「鳥居龍蔵が訪れた台湾・力里旧社」、p. 6.

小林篤正「台湾との学术交流について」、p. 7.

●鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER No. 5

2024年3月20日発行、A4判8ページ、3,000部

小林篤正「鳥居龍蔵ときみ子の写真」(今季の逸品)、p. 1.

石井伸夫「第5章 北東アジアでの調査と「固有日本人」の発見」(資料でたどる、鳥居龍蔵の学問と生涯)、p. 2-3.

下田順一「遼代の白磁資料」(資料整理の最前線)、p. 4.

長谷川賢二「笠井新也」(龍蔵を巡る人々—碩学と社会のインターフェイス)、p. 5.

植地岳彦「東京大学総合研究博物館が所蔵する台湾考古資料の調査」、p. 6.

坂東 泰「台湾・内文旧社見聞記」、p. 7.



NEWS LETTER No. 4 の表紙



NEWS LETTER No. 5 の表紙

V 台湾との交流

鳥居龍蔵記念博物館は、令和2年度に宮岡真央子氏（福岡大学）の仲介により、国立台湾史前文化博物館との交流を始めた。4年度には、同館との間で、連携協定を締結した。5年度に行った主な活動は、以下のとおりである。

1. 国立台湾史前文化博物館との連携協定附属書の締結

2月27日に、国立台湾史前文化博物館と連携協定附属書を締結し、双方の著作権や台湾先住民族の権利について取り決めた。

2. 共同研究会・調査の実施

国立台湾史前文化博物館や、その他の共同研究者とともに資料調査を行い、相互に研究の進展を図った。以下に、その概要を示す。

●国立台湾史前文化博物館とのオンライン研究会

6月7日（水）に、国立台湾史前文化博物館とのオンライン研究会を実施した。当館の小林篤正と史前文化博物館の陳俊男氏が、それぞれ報告を行った。その後、今後の相互交流の方針について、協議を行った。研究会には、鄭安暉氏（国立台中教育大学区域与社会发展学系）も、オンライン形式で参加した。

●東京大学総合研究博物館での考古資料調査

6月28日（水）・29日（木）に、東京大学総合研究博物館を訪れ、8月の調査に向けた予備調査を行った。

●国立台湾史前文化博物館とのオンライン研究会

8月4日（金）に、国立台湾史前文化博物館とのオンライン研究会を実施した。当館の石井伸夫と史前文化博物館の林慧仙氏が、それぞれ報告を行った後、今後の相互交流の方針について協議した。研究会には、鄭安暉氏、野林厚志氏（国立民族学博物館）、宮岡真央子氏（福岡大学）がオンライン形式で参加したほか、山西弘朗氏（香川大学）に通訳を務めていただいた。

●東京大学総合研究博物館での考古資料調査

8月28日（月）から8月31日（木）にかけて、東京大学総合研究博物館を訪れ、戦前の東京帝国大学人類学教室が収集した台湾考古資料を調査した。外部からは、陳有貝氏（国立台湾大学人類学系）、曾于宣氏、葉長庚氏、王仲群氏（以上、国立台湾史前文化博物館）、劉益昌氏（国立成功大学考古学研究所）、野林厚志氏、宮岡真央子氏、高島芳弘氏（鳥居龍蔵を語る会）が参加した。

●国立台湾史前文化博物館とのオンライン研究会

1月16日（火）に、国立台湾史前文化博物館とのオンライン研究会を行い、今後の共同研究の方針について協議した。



国立台湾史前文化博物館とのオンライン研究会



東京大学総合研究博物館での考古資料調査

3. 台湾への訪問

4年度に引き続き、当館職員が12月4日（月）から8日（金）にかけて台湾を訪問し、国立史前文化博物館と共同で調査を行った。参加者と訪問日程は次のとおりである。

●参加者

松永友和、石井伸夫、坂東 泰

●日程

12月4日（月）

関西国際空港から桃園国際空港へ移動した。次いで台北市の松山空港へ移動し、空路で台東市に向かった。

12月5日（火）

台東市の国立台湾史前文化博物館・康楽本館を訪問し、リニューアル後の常設展示を視察した。次いで、同市にある日本統治時代の道路跡について調査を行った後、屏東県へ移動した。

12月6日（水）

屏東県の獅子郷から、山間部を進んで、内文旧社へ移動した。内文旧社に到着した後は、現地に残されている遺構等について調査した。

12月7日（木）

前日に引き続き、内文旧社の調査を行った後、高雄市へ移動した。

12月8日（金）

高雄市から桃園国際空港へ移動し、空路で帰国した。



国立台湾史前文化博物館・康楽本館での展示視察



内文旧社での調査風景

VI 管理運営

1. 組織・職員

(1) 組織図（令和6年4月1日現在）

館長〔1〕— 副館長〔1〕— 企画・学芸担当7〔4〕
 （事務職員〔2〕
 学芸員5〔2〕、
 会計年度任用職員2）
 〔 〕は兼務者数（外数）

(2) 職員名簿（令和6年4月1日現在）

館長	熊尾 雅彦	（県立博物館長本務）
副館長	中澤 晴子	（県立博物館副館長本務）
〈企画・学芸担当〉		
課長補佐	植地 岳彦	
上席学芸員	長谷川賢二	（県立博物館上席学芸員本務）
係長	丸山 直生	（県立博物館係長本務）
係長	鉄谷 雅史	（県立博物館係長本務）
学芸係長	松永 友和	（県立博物館学芸係長本務）
主 席	石井 伸夫	
主 席	下田 順一	
主任学芸員	小林 篤正	
主任学芸員	坂東 泰	
会計年度任用職員	田原 晶子	
会計年度任用職員	松家あき子	

(3) 人事異動

〈令和6年4月1日付〉

転出（兼務解除）：東條 正幸・副館長、産業創生・
 大学連携課課長補佐へ
 大橋 俊雄・課長、県立博物館上
 席学芸員（人文担当）へ
 転入（兼務）：熊尾 雅彦・館長（保健福祉部付）
 中澤 晴子・副館長（文化資源活用課
 副課長）

(4) 令和5年度会計年度任用職員

田原 晶子（令和5. 4. 1～令和6. 3. 31）
 松家あき子（令和5. 4. 1～令和6. 3. 31）

2. 防災及び危機管理

(1) 防災及び危機管理体制

危機管理全般については、文化の森振興センターを中心に、文化の森全館の館長・副館長が協議しながら、対応する体制を整えている。また、防災について、文化の森4館棟で消防防災計画を立て、二十一世紀館、博物館、近代美術館、当館と文化の森の警備、設備、食堂等の業者で自衛消防隊を組織し、非常時に備えている。

(2) 新型コロナウイルス感染症への対応

令和5年5月8日に、新型コロナウイルス感染症は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における位置づけが5類感染症となった。それにともない、来館者のマスク着用は任意とした。手指消毒用のアルコール消毒液や検温器及び空間除菌機は引き続き設置した。

(3) 防災訓練

二十一世紀館を中心に、10月17日（火）、2月27日（火）に防火防災訓練を行ったほか、県組織として随時行われる各種訓練にも参加して、防災意識を高めた。

3. 鳥居龍蔵記念博物館協議会

鳥居龍蔵記念博物館協議会は、運営に関し館長の諮問に応じるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定にもとづき設置されている。委員は、徳島県立博物館協議会委員による兼務である。

令和5年度は、県立博物館協議会を兼ねて1回開催した。

●令和5年度鳥居龍蔵記念博物館協議会

日時：令和5年9月22日（金）

13：30～15：30

会場：徳島県立博物館 講座室

議事

- (1) 令和4年度事業の実施状況について
- (2) 令和5年度予算及び事業概要について
- (3) 徳島県立博物館中期活動目標について

令和5年度鳥居龍蔵記念博物館協議会委員

(令和6年3月31日現在)

区分	氏名	役職等
学校教育	生駒 佳也	徳島県立阿南光高等学校教諭
社会教育	○安倍 久恵	フリーアナウンサー・佐古絆文化協会事務局幹事
	森脇 崇文	徳島市立徳島城博物館主査・学芸員
	福井 春菜	徳島県立佐那河内いきものふれあいの里ネイチャーセンター自然観察指導員
学識経験	宮岡真央子	福岡大学人文学部教授
	徳原 香	(株)あわわ めぐる、事業部編集長
	瀬戸 恵深	(株)エフエムびざん放送部ディレクター
	◎町田 哲	鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授
	西 記代子	四国大学文学部講師
家庭教育	森脇佳代子	阿南市立羽ノ浦小学校 PTA

◎は会長、○は副会長

4. 改正博物館法に基づく登録

当館は、博物館法に基づく登録博物館（県教育委員会が備える博物館登録原簿に登録された博物館）として位置づけられてきたが、令和4年に博物館法が改正され、新たな登録基準に基づく再登録が必要となっていた。そこで、6年3月12日付けで県教育委員会に申請し、所定の審査を経て6年5月23日付けで登録された。

5. 博物館ネットワーク

(1) 四国地区博物館協議会

四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在74館（園）が加盟している。4県が持ち回りで2年ずつ会長・事務局をつとめることになっており、令和4～5年度は高知県立高知城歴史博物館が会長館を務めている。5年度は、高知市で総会や講演・研修会等が開催された。

(2) 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興を図ることを目的とする。令和6年3月末現在、50館が加盟しており、徳島県立博物館が事務局を務め

ている。5年度は次のとおり、総会や研修会が開催された。

- ①徳島県博物館協議会総会
(6月16日、あすたむらんど徳島)
- ②徳島県博物館協議会研修会
(11月29日、松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館)

(3) アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク（ブンカラ）

アイヌの歴史・文化等に関する資料情報の集約と利活用の促進等を通じて、アイヌ文化の振興と啓発に寄与することを目的とする。令和6年3月末現在、68館が加盟しており、国立アイヌ民族博物館が事務局を務めている。当館は5年12月7日付けで加入した。

6. 各種研修会への参加

各種の研修会等に職員を派遣し、博物館職員としての意識改革と資質の向上に努めている。

- 徳島県博物館協議会総会
会 期：6月16日
会 場：あすたむらんど徳島 管理棟会議室
参加者：長谷川賢二
- 第30回全国博物館長会議（文化庁・（公財）日本博物館協会）
会 期：7月5日
会 場：文部科学省 東館3階講堂
参加者：長谷川賢二
- 令和5年度四国地区博物館協議会（日本博物館協会四国支部）総会
会 期：9月26～27日
会 場：高知県立高知城歴史博物館ほか
参加者：長谷川賢二
- ブンカラ研修会
会 期：11月11～12日
会 場：国立アイヌ民族博物館
参加者：坂東 泰（オンデマンド形式）
- 徳島県博物館協議会研修会
会 期：11月29日
会 場：松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館
参加者：長谷川賢二、小林篤正
- 全日本博物館学会令和5年度研究会
会 期：2月20～21日
会 場：オーテピア、高知県立牧野植物園
参加者：長谷川賢二

7. 視察等来訪者

6月27日

藏田愛子氏（東京大学大学院）

7月30日

廣瀬薫雄氏（復旦大学）

8月28～30日

呉 心怡氏（早稲田大学文学学術院）ほか一行3人

9月2日

劉 益昌氏（国立成功大学考古学研究所）ほか一行
3人

9月6日

横田素子氏（東アジア歴史文化研究所）

12月3日

関口 寛氏（同志社大学人文科学研究所）

12月6日～8日

井上桂子氏（筑波大学人間総合科学学術院）

3月27～28日

黄 荣光氏（中国科学院大学）

VII 観覧者統計

●令和5年度 常設展観覧者数

月	開館日数	有 料 観 覧 者							無 料 観 覧 者														観覧者 総数			
		個 人			団体（割引20％）				有料 観覧者 計	学 校 教 育								個 人						無料 観覧者 計		
		一般	高校・ 大学生	小・中 学生	一般	高校・ 大学生	小・中 学生	幼稚園・保育園 園数：人数		小学校 校：人数	中学校 校：人数	高 校 校：人数	計 校：人数	小学生	中学生	高校生	障がい者	高齢者	その他							
4 月	26	20	8	0	28	6	0	62	0	0	0	0	0	0	0	30	5	1	13	61	104	214	276			
5 月	26	26	7	0	31	31	0	95	0	0	1	107	0	0	0	1	107	180	14	11	27	100	801	1,240	1,335	
6 月	26	19	7	0	92	5	0	123	0	0	0	0	0	0	0	0	25	4	2	15	60	55	161	284		
7 月	26	19	5	0	33	7	0	64	0	0	2	47	0	0	0	0	2	47	57	18	5	16	79	134	356	420
8 月	27	28	5	0	36	6	0	75	0	0	0	0	0	0	0	0	277	36	18	11	83	524	949	1,024		
9 月	26	43	7	0	35	5	0	90	1	13	0	0	0	0	0	1	13	57	9	5	18	89	171	362	452	
10月	26	21	5	0	44	1	1	72	0	0	3	403	0	0	0	0	3	403	64	8	0	6	88	109	678	750
11月	26	7	2	0	8	0	0	17	1	98	13	674	0	0	0	0	14	772	210	28	13	17	166	880	2,086	2,103
12月	24	20	6	0	32	9	0	67	0	0	0	0	0	0	0	0	16	2	0	3	52	64	137	204		
1 月	23	16	1	0	27	5	0	49	1	14	0	0	0	0	0	1	14	40	2	4	5	63	77	205	254	
2 月	25	44	5	0	42	6	1	98	0	0	3	93	1	6	0	0	4	99	273	21	24	20	177	849	1,463	1,561
3 月	26	31	7	0	66	6	0	110	0	0	0	0	0	0	0	0	49	7	3	11	130	120	320	430		
計	307	294	65	0	474	87	2	922	3	125	22	1,324	1	6	0	0	26	1,455	1,278	154	86	162	1,148	3,888	8,171	9,093

●常設展観覧者数累計

年度	開館日数	有 料 観 覧 者											無 料 観 覧 者																	観覧者総数	
		個 人			団体（割引20％）			減免（割引50％）					有料観覧者計	学 校 教 育					個 人					無料観覧者計							
		一般	高校生・大学生	小・中学生	一般	高校生・大学生	小・中学生	大 人	高齢者	障がい者	小・中学生	幼稚園・保育園		小学校	中学校	高校	計	小学生	中学生	高校生	障がい者	高齢者	その他								
平22	121	909	33	6	66	0	0	790	49	839	0	0	1,853	9	540	15	851	2	12	1	15	27	1,418	1,259	60	37	—	—	3,432	6,206	8,059
平23	309	895	77	13	71	44	0	556	84	640	0	0	1,740	1	90	32	2,179	7	641	3	332	43	3,242	2,950	270	214	—	—	8,510	15,184	16,924
平24	308	621	106	4	65	0	0	120	22	142	0	0	938	2	182	33	2,450	2	9	2	341	39	2,982	3,089	225	135	129	829	7,256	14,645	15,583
平25	307	506	176	4	48	48	0	—	—	—	—	—	782	10	538	36	2,197	1	3	1	142	48	2,880	2,886	294	158	203	1,071	6,382	13,874	14,656
平26	307	436	150	9	110	18	0	—	—	—	—	—	723	8	381	32	1,755	5	97	3	335	48	2,568	2,770	200	76	320	1,575	6,080	13,589	14,312
平27	308	409	105	1	266	50	5	—	—	—	—	—	836	3	250	14	644	0	0	1	37	18	931	3,334	323	168	398	2,111	7,964	15,229	16,065
平28	308	389	83	1	202	13	2	—	—	—	—	—	690	4	180	7	120	2	81	1	25	14	406	4,310	325	198	415	1,897	9,698	17,249	17,939
平29	308	338	70	1	191	21	0	—	—	—	—	—	621	5	164	5	343	1	59	3	264	14	830	3,143	267	188	238	1,697	7,203	13,566	14,187
平30	308	276	71	2	147	43	1	—	—	—	—	—	540	6	119	11	373	1	113	1	12	19	617	2,445	206	184	229	1,662	7,035	12,378	12,918
令1	307	260	51	0	130	30	4	—	—	—	—	—	475	2	56	23	697	0	0	1	32	26	785	3,020	208	160	141	1,728	8,298	14,347	14,822
令2	292	395	70	22	237	11	144	—	—	—	—	—	879	2	106	13	869	1	36	0	0	17	1,011	1,073	75	49	175	1,054	2,459	5,896	6,775
令3	301	340	105	0	255	47	0	—	—	—	—	—	747	1	72	18	1,226	0	0	1	5	20	1,303	704	82	56	119	866	2,019	5,149	5,896
令4	307	245	111	1	330	31	0	—	—	—	—	—	718	2	106	9	648	2	66	1	5	14	825	1,198	88	64	195	903	3,700	6,973	7,691
令5	307	294	65	0	474	87	2	922	—	—	—	—	922	3	125	22	1,324	1	6	0	0	26	1,455	1,278	154	86	162	1,148	3,888	8,171	9,093
計	4,098	6,313	1,273	64	2,592	443	158	1,466	155	1,621	0	0	12,464	58	2,909	270	15,676	25	1,123	19	1,545	373	21,253	33,459	2,777	1,773	2,724	16,541	83,924	162,456	174,920

(※) 平成24年9月から、高齢者（65歳以上）及び障がい者は無料。

●企画展観覧者数累計

企 画 展 名	開催期間	開催 日数	有 料 観 覧 者									無 料 観 覧 者				観覧者 総 数
			個 人			団体（割引20%）			減免（割引50%）		有 料 観覧者 計	個 人			無 料 観覧者 計	
			一般	高校・ 大学生	小・中 学生	一般	高校・ 大学生	小・中 学生	一 般	障がい者		高校・ 大学生	小・中 学生	その他		
鳥居龍蔵の見た台湾	平24. 1. 28～3. 11	38	549	21	1	14	1	0	559	34	1,179	20	1,037	363	1,420	2,599
鳥居龍蔵の国内調査 —沖縄・南九州—	平26. 1. 25～3. 2	32	270	22	0	11	0	0	139	—	442	9	595	707	1,311	1,753
よみがえる縄文世界 —鳥居龍蔵の信州調査—	平27. 1. 24～3. 1	32	377	40	7	78	0	0	285	—	787	39	805	1,196	2,040	2,827
鳥居龍蔵 —世界に広がる知の遺産—	平28. 1. 23～2. 28	32	179	19	0	94	2	0	266	—	560	61	309	901	1,271	1,831
遙かなるマチュピチュ —鳥居龍蔵、南アメリカを行く—	平29. 1. 28～3. 5	32	536	29	2	194	4	0	592	—	1,357	30	494	1,023	1,547	2,904
鳥居龍蔵、日本人の起源に迫る —本山彦一との交流—	平30. 2. 10～3. 18	32	144	10	0	49	0	0	167	—	370	25	283	1,068	1,376	1,746
鳥居龍蔵と小金井良精 —日本人の起源を求めて—	平31. 1. 26～3. 3	32	122	5	0	43	2	0	139	—	311	16	484	1,024	1,524	1,835
文化財調査の先覚者 鳥居龍蔵、徳島を探る	令2. 2. 8～3. 15	32	120	9	1	49	0	0	165	—	344	90	312	735	1,137	1,481
鳥居龍蔵の学問と世界	令3. 2. 13～3. 21	32	60	2	2	43	0	0	111	—	218	5	43	280	328	546
鳥居龍蔵と草原の遊牧王朝 遼	令4. 2. 5～3. 13	32	106	20	0	36	2	0	141	—	305	8	184	286	478	783
鳥居龍蔵をめぐる人々	令5. 2. 4～3. 12	32	83	5	0	31	25	0	85	—	229	8	203	807	1,018	1,247
台湾世界を行く —鳥居龍蔵の見た海・山・ひと・ムラ—	令6. 1. 27～3. 3	32	194	13	1	80	3	0	207	—	498	16	294	689	999	1,497
合 計		390	2,740	195	14	722	39	0	2,856	34	6,600	327	5,043	9,079	14,449	21,049

(※) 平成24年9月から、障がい者は無料。

22 観覧者統計

●特別陳列観覧者数累計

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
鳥居龍蔵の見た北東アジア	平23.10.29～12.4	32	4,534
鳥居龍蔵とアイヌ	平25.1.26～3.3	32	5,465
合 計		64	9,999

●人権啓発展観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
2010年度人権問題啓発展	平22.11.30～12.5	6	670
2011年度人権問題啓発展	平23.12.6～12.11	6	383
2012年度人権問題啓発展	平24.12.4～12.9	6	356
2013年度人権問題啓発展	平25.12.4～12.10	6	341
2014年度人権問題啓発展	平26.12.10～12.16	6	315
2015年度人権問題啓発展	平27.12.9～12.15	6	270
2016年度人権問題啓発展	平28.12.9～12.15	6	244
2017年度人権問題啓発展	平29.12.6～12.12	6	227
2018年度人権問題啓発展	平30.12.5～12.11	6	382
2019年度人権問題啓発展	令1.12.4～12.10	6	278
2020年度人権問題啓発展	令2.12.9～12.15	6	447
2021年度人権問題啓発展	令3.12.8～12.14	6	419
2022年度人権問題啓発展	令4.12.7～12.13	6	262
2023年度人権問題啓発展	令5.12.6～12.12	6	348
合 計		84	4,942

●その他（啓発展を除く共催事業）観覧者数（平成23年度～）

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
鳥居龍蔵が見た「祭り」「踊り」	平23.7.20～23.8.28	36	4,038
合 計		36	4,038

（※）観覧者数は開催期間中の常設展来館者数合計。

●館内各種展示観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
鳥居龍蔵の南アメリカ調査と乗り物	平29.2.4～29.4.23	68	11,031
鳥居龍蔵生誕150周年「鳥居龍蔵とは!?」	令2.7.21～2.11.29	114	8,230
鳥居龍蔵が撮影した台湾一人々と風景―	令3.9.14～4.2.6	120	12,715
鳥居龍蔵の見た遠代の仏塔	令4.8.2～4.11.13	90	10,041
鳥居龍蔵の見た120年前の木頭―文化の森展	令4.11.15～5.1.9	43	3,042
学知のユリカゴ 台湾―青年 鳥居龍蔵の挑戦―（文化の森展）	令5.1.11～5.3.16	56	5,243
合 計		491	50,302

●館外各種展示観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
移動展 鳥居龍蔵が見た120年前の木頭	令4.8.6～4.9.9	37	262
学知のユリカゴ 台湾―青年 鳥居龍蔵の挑戦―（新町小学校展）	令4.10.4～4.10.13	10	109
学知のユリカゴ 台湾―青年 鳥居龍蔵の挑戦―（阿南市立阿波公方・民俗資料館展）	令4.10.18～4.10.30	12	51
学知のユリカゴ 台湾―青年 鳥居龍蔵の挑戦―（美馬市立図書館展）	令4.11.30～4.12.19	16	1,287
学知のユリカゴ 台湾―青年 鳥居龍蔵の挑戦―（四国大学展）	令4.12.3～4.12.25	20	947
学知のユリカゴ 台湾―青年 鳥居龍蔵の挑戦―（徳島大学展）	令5.1.11～5.2.2	17	680
合 計		112	3,336

●利用者総数年度別一覧

年度	常 設 展		常設展観覧者 合 計	企画展 観覧者	特別陳列 観 覧 者	移動展等	普及行事 参 加 者	その他	利用者総数
	有料観覧者	無料観覧者							
平22年度	1,853	6,206	8,059	—	—	—	236	670	8,965
平23年度	1,740	15,184	16,924	2,599	4,534	—	412	4,421	28,890
平24年度	938	14,645	15,583	—	5,465	—	1,968	356	23,372
平25年度	782	13,874	14,656	1,753	—	—	3,387	370	20,166
平26年度	723	13,589	14,312	2,827	—	—	4,167	336	21,642
平27年度	836	15,229	16,065	1,831	—	—	2,898	527	21,321
平28年度	690	17,249	17,939	2,905	—	8,439	4,521	844	34,648
平29年度	621	13,566	14,187	1,746	—	2,592	3,282	430	22,237
平30年度	540	12,378	12,918	1,835	—	—	3,174	649	18,576
令元年度	475	14,347	14,822	1,481	—	—	3,047	479	19,829
令2年度	879	5,896	6,775	546	—	8,230	380	1,823	17,754
令3年度	747	5,149	5,896	783	—	12,715	672	419	20,485
令4年度	718	6,973	7,691	1,247	—	21,662	3,716	682	34,998
令5年度	922	8,171	9,093	1,497	—	7,213	3,543	669	22,015
累計	12,464	162,456	174,920	21,050	9,999	60,851	35,403	12,675	314,898

（※）特別陳列は自主事業のみの観覧者数。その他は、人権啓発展と共催事業を合わせた観覧者数

IX 例 規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例〔抜粋〕

制 定 平成2年3月26日 徳島県条例第11号
最近改正 令和4年3月18日 徳島県条例第10号

(設置)

第1条 個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。

(名称及び業務)

第2条 文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名 称	業 務
徳島県立鳥居龍蔵記念博物館 (以下「鳥居記念館」という。)	1 鳥居龍蔵に関する資料（以下「鳥居記念館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 2 鳥居記念館に関する調査研究を行うこと。 3 鳥居記念館資料に関する講座等の教育普及事業を行うこと。 4 その他鳥居記念館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

(利用の許可)

第3条 (省略)

(観覧料等)

第4条 博物館が展示する博物館資料、美術館が展示する美術館資料又は鳥居記念館が展示する鳥居記念館資料を観覧する者に対しては、別表第1に掲げる額の観覧料を徴収する。

2 (省略)

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。

4 観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。

(損害の賠償)

第5条 文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認めるときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。

(職員)

第6条 図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。

(協議会)

第7条 知事の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

協 議 会 の 名 称	所 掌 事 務
徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会	鳥居記念館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

2 協議会は、委員10人以内で組織する。

3 徳島県立図書館協議会、徳島県立博物館協議会、徳島県立近代美術館協議会及び徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命するものとする。

4 (省略)

5 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 委員は、再任されることができる。

7 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

(規則への委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

別表第1 (第4条関係)

区 分		単 位	金 額			
			常 設 展		企 画 展	
			個 人	団 体 (20人以上をいう。以下同じ)	個 人	団 体
美術館及び鳥居記念館資料	小・中学生	1人1回	50円	40円	知事とその都度定める額	
	高校・大学生等	1人1回	100円	80円		
	一 般	1人1回	200円	160円		

(備考)

「小・中学生」とは小学校の児童及び中学校の生徒並びにこれらに準ずる者を、「高校・大学生」とは高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者を、「一般」とは小・中学生及び高校・大学生等以外の者（学齢に達しない者を除く。）をいう。

●徳島県立鳥居龍蔵記念博物館管理規則

制 定 令和2年3月24日 徳島県規則第50号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館（以下「鳥居記念館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 鳥居記念館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

(1) 月曜日（月曜日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後においてその日に最も近い休日でない日）

(2) 1月1日から同月4日まで及び12月29日から同月31日まで

2 知事は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。

(供用時間)

第3条 鳥居記念館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 知事は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。

(遵守事項)

第4条 鳥居記念館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）及びこの規則並びに知事が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。

(入館の禁止等)

第5条 知事は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。

(1) 泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者

(2) 前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者

(資料の特別利用)

第6条 学術その他の目的のために鳥居記念館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、知事の承認を受けなければならない。

(補則)

第7条 この規則に定めるもののほか、鳥居記念館の管理に関し必要な事項は、知事が別に定める。

●徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会規則

制 定 令和2年3月24日 徳島県規則第44号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）第7条第7項の規定に基づき、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長各1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(雑則)

第4条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県行政組織規則〔抜粋〕

制 定 昭和42年3月28日 徳島県規則第15号

最近改正 令和6年3月29日 徳島県規則第37号

第1章 総 則（省略）

第2章 事務部局（省略）

第3節 センター等

第1款 設置等

(法令又は条例の規定により設置されたセンター等の名称等)

第34条 前条第1項に規定する機関のほか、次の表の上欄に掲げる部に、それぞれ同表の下欄に掲げる機関を設置する。

部及び局	機 関		
	名 称	設置の目的又は根拠法令	位 置
観光スポーツ文化部	徳島県文化の森振興センター	徳島県文化の森総合公園文化施設の運営を総合的に推進するため	徳島市八万町

2 次の表の上欄に掲げる機関については、それぞれ同表の下欄に掲げる法令又は条例の規定により設置された機関を当該上欄に掲げる機関を構成する機関とする。

機 関	法令又は条例の規定により設置された機関		
	名 称	位 置	所管区域
徳島県文化の森振興センター	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館 (以下「鳥居記念館」という。)	徳島市八万町	

第2款 内部組織及び分掌事務

(分掌事務)

第36条 センター等の分掌事務は、別表第6に掲げるとおりとする。

第3款 職及び職務

(所長)

第38条 センター等に所長（（省略）図書館、博物館、美術館、文書館、二十一世紀館、鳥居記念館（省略））にあつてはそれぞれの機関の名称を冠した長（省略）。以下この款において「所長」という。）を置く。

2 所長は、上司の命を受け、当該機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

(副所長等)

第39条 前条に規定する職のほか、次の表の上欄に掲げる職をそれぞれ同表の下欄に掲げる機関に置く。

職	機 関
副 館 長	(1)図書館 (2)博物館 (3)美術館 (4)文書館 (5)二十一世紀館 (6)鳥居記念館

2 副所長、副校長、副館長及び副課長の職務は、上司の命を受け、所長を補佐するものとする。

(主幹等)

第41条 前3条に規定する職のほか、必要と認めるときは、次の表の上欄に掲げる職をセンター等又はセンター内課等に置き、その職務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
課 長	上司の命を受け、センター等の重要施策又は重要事業の推進に関する事務又は試験研究のうち高度の知識又は経験を必要とするものを処理する。
課 長 補 佐	上司の命を受け、センター等又はセンター内課等の重要施策又は重要事業の推進に関する事務に従事する。
上席学芸員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の重要施策又は重要事業の推進に関する資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
主 査	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
専門学芸員	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
係 長	上司の命を受け、センター等又はセンター内課等の事務に関し命ぜられた事項を処理する。
学 芸 係 長	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
主 席	上司の命を受け、特に命ぜられた相当の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
主 任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務又は試験研究の業務に従事する。

(主任主事等)

第42条 前38条から前条までに規定する職のほか、センター等又はセンター内課等に、別表第4の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

第3章 附属機関

第57条 附属機関の名称及び庶務を担当する組織は、別表第8に掲げるとおりとする。

別表第4 主任主事等の職及び職務

職	職 務
主 任 主 事	上司の命を受け、相当の経験を必要とする事務に従事する。
主 事	上司の命を受け、事務に従事する。
主任学芸員	上司の命を受け、相当の経験を必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
学 芸 員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。

別表第6 主任主事等の職及び職務

センター等	分 掌 事 務
鳥居記念館	(1)鳥居龍蔵に関する資料（以下「鳥居記念館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2)鳥居記念館資料に関する調査研究を行うこと。 (3)鳥居記念館資料に関する講座等の教育普及事業を行うこと。 (4)その他鳥居記念館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

別表第8 附属機関の名称及び庶務を担当する組織

	名 称	庶務を担当する組織
74	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会	鳥居記念館

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館年報 第14号（令和5年度）

令和6（2024）年8月26日 発行

編集・発行：徳島県立鳥居龍蔵記念博物館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

（文化の森総合公園内）

Tel. 088-668-2544 Fax. 088-668-7197

Eメール torii-museum@bunmori.tokushima.jp

ホームページ <https://torii-museum.bunmori.tokushima.jp>

印 刷：徳島県教育印刷株式会社
